



スターライト栗東工場エントランス

## サステナブルな社会に向けたイノベーションを追求

スターライトは、使いやすさへの理解を深め、より持続的に使用できるように製品を改良し続けることで、地球に過度な負担をかけないシステムづくりに取り組んでいる。

スターライトは、1936年に独自のフェノール樹脂摺動材料の開発を行うベンチャー企業として設立され、以来、高機能エンブラなどの各種素材と高度なトライボロジー（摩擦・摩耗・潤滑工学）技術を活用し、鉄鋼、造船、産業機械、自動車、通信、住宅産業など幅広い産業で多角的な事業展開を行ってきた。

「我々は、モノづくりを通じて、人々の暮らしの安全・安心を支え、社会の課題を解決する技術開発型クリエイティブ集団です。自然と調和した豊かな生活をサポートすることがスターライトの使命であり、その使命を果たすための努力の一瞬一瞬が私たちの成長につながっているのです。単に便利さや快適さを追求するのではなく、地球や社会にとって本当に必要なコト・モノを創造し



クラッチ・ブレーキ

たい」と語るのはスターライト工業株式会社、代表取締役社長の西郷氏。

「使いやすさへの理解を深め、より長く使えるように改良を重ねることで、地球に過度な負担をかけないシステムづくりに取り組んでいきたいです。また、近年の経済発展に伴い、格差社会、自然災害、気候変動、環境汚染、心の病などの深刻な問題に目を向け、心の豊かさも追求したいと考えています」としている。



アクティブグリルシャッター (AGS)

サステナビリティに関しては、バイオプラスチックへの移行とリサイクル技術の向上を計画しており、近年の研究開発では、リサイクルのために材料を溶かすための温度調整などを追求している。「循環型経済を実現するために、研究開発部門と一体となって取り組んでいます。サステナビリティの話をする、なんとなくリサイクルを思い浮かべるかもしれませんが、既存のものを長く使い続けること、新しい再利用先を見つけることも大切だと感じています」

自動車産業が低炭素化の一環として電動化へ移行する中、同社は開発中の技術を応

用し、革新的なソリューションで自動車産業に貢献する方法を模索している。実際に2009年以降、スターライトはRöchling Automotive社と技術提携し、さまざまな製品を開発してきた。その一例が、自動車の空力と熱システムをコントロールするアクティブグリルシャッター (AGS) である。「このRöchling Automotive社の独自技術を、合弁会社を通じて更に日本市場へ展開していきたいです。加えて、多くの部品で軽量化にも取り組んでいます。鉄などの重金属ではなく、軽量のプラスチックを使った部品を開発する余地がまだまだあると考えています」と西郷社長は具体的な未来を見据えている。



eMET

長年の経験で培った複合材料技術と評価・解析技術の組み合わせにより、さまざまな使用環境や要求性能に適した新機能の開発が可能になった。同



「循環型経済の実現に向け、研究開発部門とともに一体になって取り組んでいます」

スターライト工業株式会社  
代表取締役社長 西郷隆志

社製品は、圧延機用耐疵・耐熱エプロン、船舶用舵軸受から、各種産業機械用ブレーキ、複合機用小型剥離爪まで多岐にわたる。近年では、IoTを活用した熱中症の遠隔管理システム付きヘルメット「eMET」を開発し、作業現場の安全確保と作業品質の向上に貢献している。また、今年6月には日本初となるバイオマス素材のヘルメットの発売を開始した。

今後もスターライトは、グループの力を結集し、今日の社会的課題を技術やアイデアで解決し、志を同じくする人々との共創によって、地球の未来のためにさまざまな問題に取り組んでいくことを目指している。

**STARLITE**  
<https://starlite.co.jp>